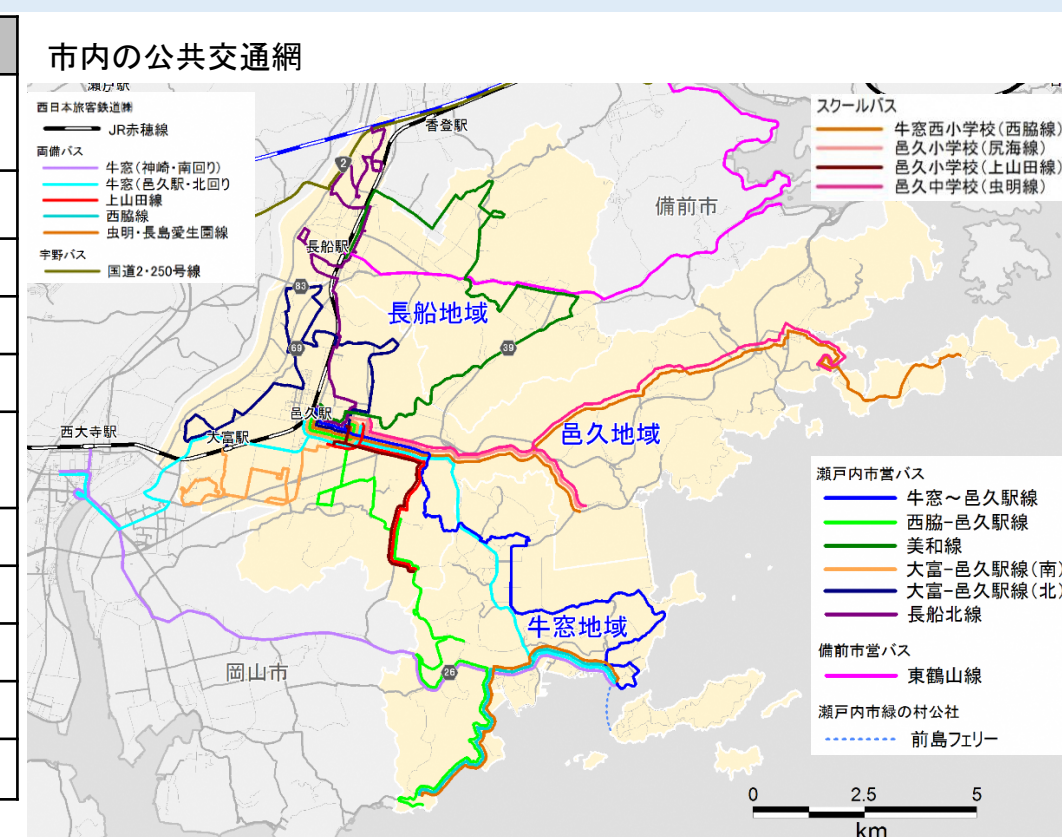


現況・問題点	
人口	人口減少・少子高齢化の進展
公共交通の現状	公共交通利用者の減少
	民間事業者の経営努力だけでは事業を継続することが困難
	市営バスの導入やタクシー活用制度の導入により、公共交通不便地域は概ね解消されたが、一部地区で残る
	公共交通サービスの充実に伴い、行政負担が増加
	駅前広場の施設整備が不十分
	新型コロナウイルスの影響による、瀬戸内市関連の移動量、公共交通利用者数の減少及び経営環境の悪化
	新技術開発による公共交通活性化の可能性
各種調査	買物・通院・通学・通勤の移動において、瀬戸内市内及び岡山市への移動が多い
	「公共交通機関が利用しやすい」と思う市民の割合が増加した一方で、市民の改善要望は「運行本数を増やす」、「鉄道との乗継ぎを便利にする」等が多い
	住民や来訪者に対する公共交通に関する情報ツールは十分整備されているが、公共交通の認知度は市営バスで約8割、タクシー活用制度で約6割
	前計画策定時よりも近隣市町からの通学者が増加

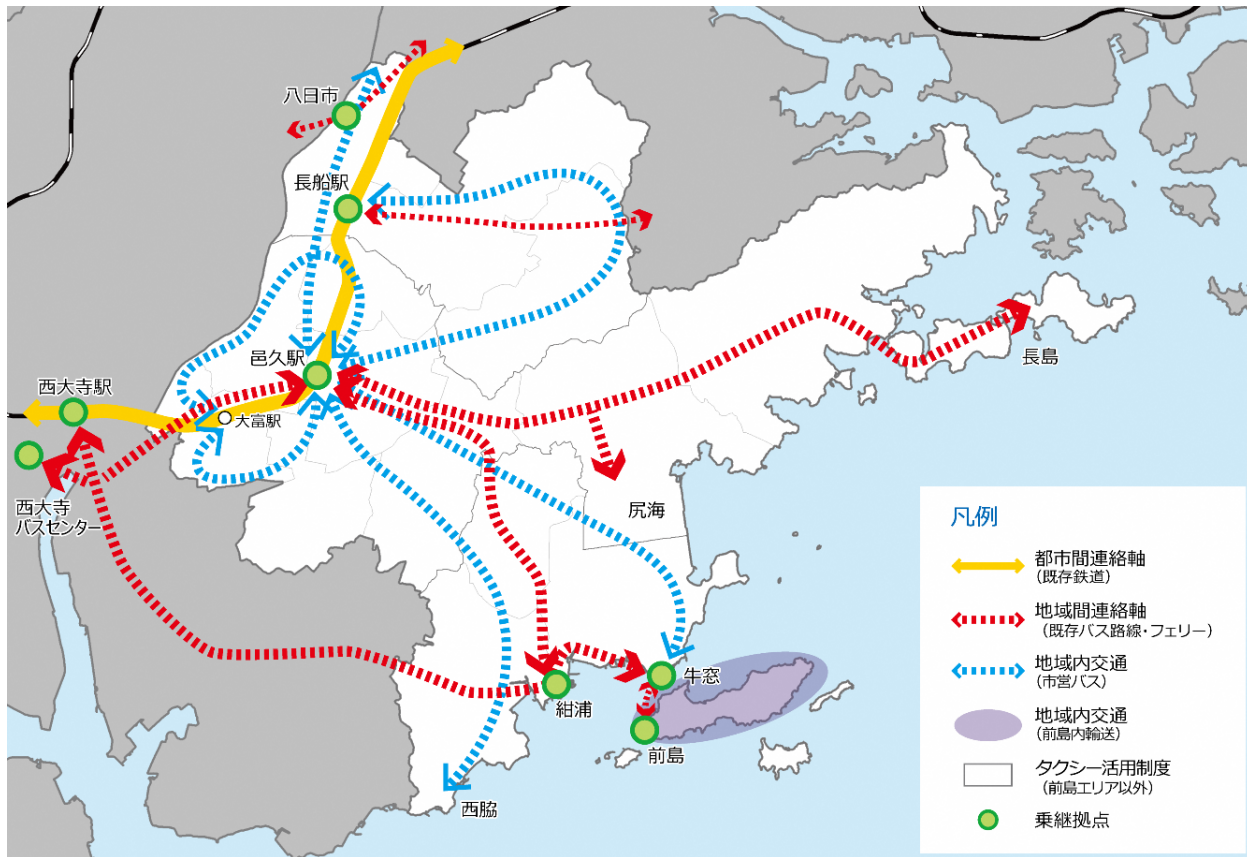
地域旅客運送サービスの課題	
公共交通網に関する課題	移動手段の継続的な確保 (公共交通不便地域対策)
	利用者ニーズにマッチした移動サービスの提供
	交通事業者の生産性を考慮した施策展開
利用促進に関する課題	継続的な行政支援
	利用者目線に立った分かりやすい情報提供
	交通結節点・乗継拠点・バス停等の利用環境の整備
協働・連携に関する課題	新たな利用者の掘り起こし
	福祉分野・観光分野との連携
	関係者の連携による不測の事態への対応
	住民との協働
	未来技術の活用



計画の基本方針 「公共交通が支える持続可能で活気あるまち せとうち」

計画の目標	目標に対する評価指標	現状値	目標値	事業	実施主体
1.便利で「使える」公共交通の構築	①公共交通利用者総数	1,459,533人/年	1,401,152人/年	事業1 JR・路線バス(備前市営バス含む)との乗継利便性向上事業	瀬戸内市、交通事業者
	②移動手段別利用者数	各路線ごとの利用者数を評価指標とし、詳細については本編に記載		事業2 市営バス利便性向上事業	瀬戸内市、交通事業者、地域住民
	③公共交通機関が利用しやすいと思う市民の割合	26.5%	32.5%	事業3 地域内交通導入事業	
	④各種手段の認知度	市営バス 81.4% タクシー活用制度 56.9%	市営バス 90.0% タクシー活用制度 70.0%	事業4 タクシー活用制度利便性向上事業	
2.人とまちを元気にする公共交通の構築	⑤通学定期の利用者数	27人/年	26人/年	事業5 利用環境改善事業	瀬戸内市、交通事業者、岡山県、瀬戸内警察署
	⑥商業施設最寄バス停の利用者数	26人/日	25人/日	事業6 高校生公共交通利用促進事業	瀬戸内市、交通事業者、市内高校、市内中学校
	⑦主要観光地最寄バス停の利用者数	102人/月	123人/月	事業7 観光産業等と連携した公共交通サービスの整備・利用促進事業	瀬戸内市、交通事業者、地域住民、岡山県、観光協会
	⑧前島住民以外の前島フェリー利用者数	79,816人/年	95,779人/年	事業8 新たな生活様式に対応したサービス提供・利用促進事業	瀬戸内市、交通事業者、地域住民
3.いつまでも存続する公共交通の構築	⑨移動に関する行政負担総額	7,640万円/年	7,640万円/年	事業9 近未来技術活用事業	瀬戸内市、交通事業者、岡山県
	⑩公的資金が投入されている公共交通事業の路線別収支率	牛窓線(南回り) 32.3% 牛窓線(北回り) 29.0% 虫明・長島愛生園線 35.1%	牛窓線(南回り) 32.3% 牛窓線(北回り) 29.0% 虫明・長島愛生園線 35.1%	事業10 地域・民間・公共イベント等での公共交通利用促進事業	瀬戸内市、交通事業者、地域住民、沿線施設、社会福祉協議会
	⑪公共交通不便地域の居住人口割合	0.4%	0.0%	事業11 福祉分野と連携したシームレスな移動手段確保事業	瀬戸内市、交通事業者、介護タクシー事業者等
				事業12 住民との協働による移動サービスの提供・利用促進事業	瀬戸内市、交通事業者、地域住民、沿線施設
				事業13 関係者連携事業	

# 公共交通網の将来像と関係する輸送資源



公共交通網の将来像	交通機関	対象路線	役割
都市間連絡軸 ←→	鉄道	J R 赤穂線	他都市との広域移動と市内の一部の移動を担う都市間連絡軸として位置付ける。
地域間連絡軸 ←- - -→	路線バス	牛窓(邑久駅・北回り)西大寺線 牛窓(神崎・南回り)西大寺線 虫明・長島愛生園線 国道2・250号線 東鶴山線	既存バス路線は、集落と市内の鉄道駅、岡山市の交通結節点への移動を担う地域間連絡軸として位置付ける。
	フェリー	前島フェリー	本土と前島住民の移動を担う地域間連絡軸として位置付ける。
地域内交通	市営バス	牛窓-邑久駅線 西脇-邑久駅線 美和線 大富-邑久駅線(南) 大富-邑久駅線(北) 長船北線	公共交通不便地域において、自家用車で移動できない高齢者等の買物、通院利用を前提として鉄道、路線バスを補完するものに位置付ける。 運行区域に近い駅やバス停(乗継拠点)、地域の拠点となる場所で乗継ぎを行う。
	前島内輸送	-	-
	タクシー	-	鉄道や路線バス、市営バス等の地域内交通が運行していない曜日や時間帯の需要や、きめ細かいサービス需要に対応する交通として位置付ける。 公共交通不便地域において、タクシーを利用する際に運賃の一部を助成する。(タクシー活用制度)

関係する輸送資源	役割
自治会輸送	自家用車で移動できない高齢者等の買物、通院利用を前提として鉄道、路線バス、市営バス等を補完するものに位置付ける。
スクールバス	小・中学生の通学利用を最優先に運行する。
福祉有償運送 介護タクシー	要支援認定や要介護認定を受けるなど、他人の介助によらず移動することが困難であると認められ、かつ単独でタクシー等の公共交通を利用することが困難な人を対象とする。
その他	上記の他に、レンタサイクル等も末端手段として位置付ける。

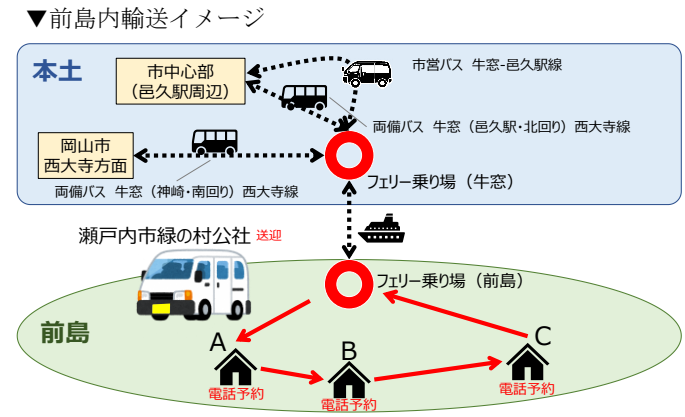
# 主な事業

## 事業2 市営バス利便性向上事業

- 意見交換会を通じて把握した利用者意見、利用実績等をもとに、運行経路、ダイヤ等の見直しを行う。

## 事業3 地域内交通導入事業

- 前島住民(主に自家用車を保有しない高齢者)を対象として、自宅とフェリー乗り場(前島側)の移動に利用できる地域内交通を新たに導入する。
- 将来的には、前島を訪れる観光客等も利用できる仕組みを検討する。



## 事業4 タクシー活用制度利便性向上事業

- アンケート調査やヒアリング調査により把握した利用者意見、利用実績等をもとに、制度の見直しを行う。

## 事業5 利用環境改善事業

- 現在発行している公共交通マップ、市営バス利用の手引きを引き続き発行する。
- 乗継割引、エリア乗り放題、高齢者優待サービス等、路線バスを含めた市内の移動手段の利便性向上につながる運賃施策を検討する。

▼市営バス利用の手引き

▼瀬戸内市営バス1日乗車券

**瀬戸内市営バス 1日乗車券**

発行当日に限り有効

令和2年11月02日

- ◆瀬戸内市営バスの全路線で何處でも利用できます。
- ◆降車の際に乗務員にご提示ください。
- ◆他人に譲渡することはできません。
- ◆再発行はしません。

## 事業7 観光産業等と連携した公共交通サービスの整備・利用促進事業

- ① タクシーツアーの造成と販売促進
  - 瀬戸内市および周辺市町を周遊するタクシーツアーの造成を行い、販売促進を行う。企画検討・実施に当たっては、岡山県、周辺市町と連携を図る。将来的には観光MaaS対応を目指す。
- ② 公共交通を利用した観光ルートの開発と販売促進
  - 地域住民、地域組織、観光協会等と連携し、公共交通を利用した観光ルートの開発と販売促進を行う。

## 事業9 近未来技術活用事業

- 自動運転、MaaS等近未来技術の実装に向けて、実証事業を検討する。
- 貨客混載、買物代行サービス、AI共同配車等事業者の生産性向上に資する事業についても検討する。

